

## 子どもたちとミツバチを守る、ネオニコチノイド系農薬の使用中止を求めるネットワーク

### 活動について

私たちは、子どもやミツバチを守るため、ネオニコチノイド系農薬の使用中止を目指し、全国で様々な活動を行っています。

- ・空中散布の中止の呼びかけ
- ・政策提言
- ・田んぼの生きもの調査
- ・ネオニコフリーの普及
- ・ネオニコチノイドの影響を広く一般の人に知らせる活動

～人や生態系に有害な農薬の使用を止め、または減らすことにより、子どもやミツバチを初めとした生き物たちが安心して、生まれ育つことができる環境づくりを目指しています。～

### 生活にあふれる危険・ネオニコチノイド

私たちの生活のなかにもネオニコチノイド系農薬が使われています。

- 林業** 松枯れ防除として
- ガーデニング** 殺虫剤として
- 農業** 稲・果物・野菜の殺虫剤として
- 家** シロアリ駆除・建材として
- ペット** ペットののみとりとして
- 家庭用殺虫剤** 害虫駆除、殺虫剤として

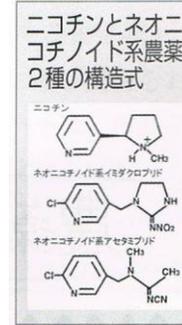
ネオニコチノイド系農薬は家庭用殺虫剤や、ペットののみとり商品として私たちの身近にあふれています。

### ネオニコチノイド系農薬って何？

そもそも、ネオニコチノイド系農薬とは何でしょう？最近多く使われている農薬(殺虫剤の1種)です。

タバコの有害成分ニコチンに似ているので、ネオニコチノイド(新しいニコチン物質)という名前がついています。

ネオニコチノイド系農薬は神経毒性、浸透性、残効性を特徴とします。ミツバチを含む昆虫類、生態系だけでなく、子ども達の健康な発達を脅かす可能性があります。



### 世界で起きたミツバチ減少と大量死

世界中でミツバチの大量死や数の減少が報告されています。この現象は、蜂群崩壊症候群(ほうぐんほうかいしょうこうぐん)、CCDと呼ばれています。2012年現在、アメリカ、カナダ、中南米、インド、中国、日本などにも広がっています。

この現象の原因として、

- ・地球温暖化によるダニなど病害虫の増加
- ・森林伐採による生息地や蜜源となる花の減少
- ・人間の都合で家畜化されたこと

こうした原因のなかで最も直接的な原因とみられているのがネオニコチノイド系農薬です。

### 何がミツバチを苦しめているのか

ミツバチ減少の原因は？



ネオニコチノイド系農薬は農業の現場だけでなく、森林にも多く使われています。

日本は森林面積が約7割を占めています。森林の松の病気である「松枯れ」の原因とされる害虫を殺す名目で、松林への農薬散布が30年以上続けられています。こうした農薬散布により、セミや野鳥が姿を消し、生態系に影響が及ぶことが報告されました。それだけではなく、子どもたちが吐き気、頭痛などの体調不良を訴えるという報告がありました。私たちは、農薬散布中止を求めて継続的に行動しています。

## 「ネオニコチノイドは人には安全」って本当？



イラスト：安藤佳典

ネオニコチノイド系農薬は人には毒性が低く安全といわれています。それは、本当でしょうか？

ネオニコチノイド系農薬は、昆虫や人の神経系で重要な働きをしているアセチルコリンという物質の正常な働きを攪乱(かくらん：混乱させ、乱すこと)します。特に退治・小児では低用量でもさまざまな影響があるということが確認されています。昆虫が死ぬ濃度では、人は死にませんが、無害であるというわけではないのです。



生きもの調査の様子

## ネオニコフリーの取組み

ネオニコチノイド系農薬を使用しない、ネオニコフリーの農業への取組みが始まっています。茨城県笠間市や大子町では「みつばちの里」計画が進んでおり、ミツバチや生きものたち安心して暮らせる環境の元で育ったお米作りがスタートしました。おいしく食べて、生産者を応援する、こうした取組みは今後全国各地に展開していく予定です。



化学物質は放射能と同じように不吉な物質で、世界のあり方、そして生命そのものを変えてしまいます。いまのうちに化学薬品を規制しなければ、大きな災害を引き起こすこととなります。

＝レイチェル・カーソン「沈黙の春」より

\*イラストはNPO法人ダイオキシシン・環境ホルモン対策国民会議「新農薬ネオニコチノイドが脅かすミツバチ・生態系・人間」より引用しました。



ネオニコチノイド系農薬の使用中止を求めるネットワーク事務局  
〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-21 戸田ビル4階  
Tel:03-5368-2735 Fax:03-5368-2736

e-mail [neonico22@ybb.ne.jp](mailto:neonico22@ybb.ne.jp) <http://no-neonico.jp/>

## 私たちのビジョンとは

農業の現場では、農作物の病害虫を予防、駆除するために様々な農薬が使われています。作物の病気の予防、駆除という反面、人体に悪い影響があることが知られてきました。ヨーロッパなどでは、有機リン系農薬は発がん性があるとして、人体に害があることから使用が禁じられるようになりました。また、ネオニコチノイド系農薬はミツバチの大量死と関係があることも分かってきました。ミツバチはハチミツを採るだけでなく、受粉の役割を果たしています。もちろん他の生き物にとってもネオニコチノイド系農薬の影響は深刻です。



こうした事実を踏まえ、いま何が起きているのかを正しく調べ、多くの人に知ってもらうこと、それが危険なものであった場合、できるかぎり使用を中止するよう呼びかけることが私たちの使命と考えています。

生きもののない地球を子どもたちに残さない。ネオニコチノイド系農薬の使用中止を実現することで、未来世代の子どもたちや野生生物が安心して生まれ育つ環境の確保を目指します。

